

会議録【要点筆記】

会議名称	令和6年度第4回米沢市地域公共交通活性化協議会	
開催日時	令和7年3月18日（火） 14時00分～15時10分	
開催場所	米沢市役所 3階 庁議室	
出席者	(委員等氏名) (所属団体等) 委員 阿部 貴宏 米沢警察署 交通課長 副会長 安部 徹 米沢商工会議所 専務理事 委員 今村 元一 米沢地区ハイヤー協議会 会長 委員 黒須 敬子 公募委員（継続） 委員 小山 雄司 山形県置賜総合支庁 道路計画課長 (代理出席 浅井信夫) ※オンライン参加 委員 菅原 佳代 山形県置賜総合支庁 総務課連携支援室 連携支援専門員 委員 鈴木 新一 米沢市地区委員会 副委員長 委員 鈴木 正幸 山交バス株式会社米沢営業所 所長 委員 高澤 由美 山形大学 准教授 委員 高橋 優子 山形県公立大学法人 法人企画主査 ※オンライン参加 委員 遠山 健 東北運輸局山形運輸支局 首席運輸企画専門官 委員 山川 良雄 公募委員（継続） 委員 吉藤 雪乃 米沢女子短期大学 学生 委員 我妻 康次 米沢市コミュニティセンター館長会 会長	
欠席者	(委員等氏名) (所属団体等) 委員 安部 朋子 山形県立米沢商業高等学校 教諭 委員 入間川 悟 東日本旅客鉄道株式会社米沢駅 駅長 委員 植野 みどり 公募委員（継続） 委員 葛西 健司 山形河川国道事務所 米沢国道維持出張所長 委員 河田 亜依 山形大学工学部 学生 委員 佐藤 香奈 米沢市立西部小学校 教頭 委員 山田 記子 米沢市身体障がい者福祉協会 婦人部	
事務局 出席者	企画調整部長、地域振興課長、地域振興課長補佐、地域交通主査、地域振興課主任（地域交通担当）	
会議次第	1 開会 2 副会長あいさつ 3 協議 (1) 報告 米沢市地域公共交通計画進捗状況について 4 その他 5 閉会	
会議資料	議事次第・委員名簿 資料1 令和6年度取組内容 資料2 公共交通利用可能人口推移 資料3 市民バス時刻表	

会議内容

【1 省略】

【2 省略】

【3 協議】

(1) 報告 米沢市地域公共交通計画進捗状況について

(事務局が資料1～3により説明)

委 員：まちなか定額タクシーを郊外部の住民が利用することはできないのか。乗合タクシーでまちなかエリアに移動し、その後、まちなかでの移動に定額タクシーを使用することはできないのか。

南原の乗合タクシーを検討した際に1地区に乗合タクシーと路線バスの2つの交通は走らせられないとの話であったが、窪田地区の見直しで、乗合タクシーと山交バス窪田線を運行することは問題ないのか。

事 務 局：街中定額タクシーは市街地においてバス路線沿線から離れているところにお住まいの人が利用することを想定しており、郊外部の人が利用することは想定していない。まちなかでの移動については、バスを活用していただきたい。

窪田地区の公共交通見直しについては、乗合タクシーと路線バスの運行時間を分けることで、2つの交通モードが重ならないようにする。このような形にした理由は、窪田地区では朝晩の通学需要が多く、乗合タクシーでは輸送力が足りないため路線バスを朝晩だけ運行する事とした。

委 員：まちなかでの移動に定額タクシーの利用を想定していないことは分かったが、郊外部住民のまちなかでの移動に定額タクシーを活用することは引き続き検討して欲しい。

委 員：現状で乗合タクシーを利用している人数はどれくらいか。

市民バスで水曜日と金曜日に無料の時間を設けていると思うが、利用状況について分析していれば共有して欲しい。

事 務 局：無料の日は2月から開始しており、2月中の開催は8日間で、全ての路線合わせて1,107人の利用があった。万世線の1日あたり利用人数は69人、市街地循環路線は266人、学園都市線では151人となっている。

通常時の利用が万世線59人に対して無料の日は69人の利用で約16%の増、市街地循環路線は、通常時230人に対して266人で約16%の増、学園都市線では通常時110人に対して151人の利用で約37%の増となっており、通常時よりも多くの方に無料の日でバスを利用していただいている。

委 員：日を迫うごとに利用者は増えているのか。

事 務 局：認知度が上がっているのか、日を迫うごとに利用は増えている。

委 員：具体的な数字を出していただくと委員も意見を言いやすくなるので次回以降検討して欲しい。

委 員：バスを利用する米短、栄養大生からの声で、通学の際に米沢駅から学園都市線を利用することは良いのだが、帰りが遠回りで米沢駅に戻るので使いづらいとのことであった。米沢駅まで30分程度かかるので、歩いて駅まで向かう学生もあり、バス利用が減っていると思う。

買い物でバスを利用する学生は一定数おり、特に冬場は自転車が使えないのでバスを利用して買い物したいと思っているが、実際に使ってみるととても使いづらいと言われる。

イオンで買い物した後に一度米沢駅を経由しなければ大学方面に戻れず、時間もかかるし、荷物もあるので大変とのことであった。

イオンからまっすぐ大学まで戻るバス路線の運行は難しいかもしれないが、

ナセ BA をハブにして乗り継ぐことで大学生が使いやすくなるのではないか。

事務局：学園都市線は運行開始後様々な課題が浮き彫りになっている。公立大学生も含めてアンケート調査を行い、その結果で行きたいところを拠点として経由するバス路線として見直し、運行を開始したが、実際に利用してみると帰る時に使いつらい等の意見をいただいた。

今後は利用しやすさを向上するような磨き上げが必要と考える。来年度については、話し合いを行いながら、より利用してもらえるバス路線になる様に検討を進めていく。その中の一つにナセ BA のハブ化という考えもあるが、令和 7 年度からの見直しでナセ BA を経由するバス路線が増えたこと、そもそもバスを乗り換える習慣がないこと等課題もあるので、今後バスを利用してもらいながら、話し合いを続けて、再来年に向けて見直しを進めていきたい。

事務局：乗合タクシーの利用実績だが、今年度の 1 月末までの全地区合計利用人数 10,811 人となっている。昨年度の全地区利用人数は 8,377 人であった。

エリアを拡大していることもあるが、今年度初めて利用者数が 1 万人を超えた。

委員：米坂線について、現在の置賜地区での運行状況と、新潟方面に行く場合は米坂線を利用してどのようにして向かうのか教えて欲しい。

事務局：列車のダイヤに合わせて今泉駅からは JR 東日本で代行バスを運行している。それに加えて、夕方等に高校生が帰宅時に使いやすいような代行バスの運行も行っている。

委員：バス車両の大きさはどれくらいか。

事務局：時間にもよるが観光バスのような大型なものやそれよりも少し小さいサイズのバスを運行している。

委員：学生向けのように外国人向けのバス利用の周知は行っているのか。

事務局：現在外国人向け公共交通の PR は行っていない。市の HP は多言語対応となっているのでそこから情報を得ることは出来なくはないと考える。ただし、HP 上で公開されている資料が日本語なので、数字等から推測するしかないこともあるので外国人向けの周知としては不足している。

副会長：昨年 9 月時点で米沢市の外国人登録人数は 1,178 人で主な国の内訳がベトナムが 406 人中国が 223 人ミャンマーが 129 人となっている。

在留資格で見ると、永住しているのが 258 人で残りは技能実習生や国際業務となっている。

委員：乗合タクシー等に国庫補助を活用しているので、毎年事業の評価を行っている。第 3 者評価の中でも関係者が一体となって取り組んでいることが高く評価されている。

米沢市の公共交通計画も後半に突入し、来年度以降も様々な交通の課題が出てくるかと思うが、こうした協議会の場を活用し意見交換をしながら、一緒に進めていきたい。

【4 その他】

委員からの意見質問なし

【5 閉会】